

---

# 二次元野郎と・・・

勿論西村

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

二次元野郎と・・・

### 【Nコード】

N0364Z

### 【作者名】

勿論西村

### 【あらすじ】

俺は二次元しか興味ない。

しかしそんな俺がある日先生に呼ばれ

クラスメイトの不登校になった宮木京子を学校に呼べと言われた

その理由は前まで俺が不登校だったからだ

そんな理由で面倒くさい事をする

## 宮木とミッドナイト

キンコーン……

授業終了チャイムが鳴り響く

そして俺が伏せていた顔を上げると担任の教師と目があつた

「佐藤君、ちょっと来て。」

佐藤君とは俺の事である。

先生に呼ばれるがまま俺は（面倒くさいが）席を立つた  
俺が先生の前に立つ。何の説教だ？

「宮木さんの事なんだけど。」

小さく先生が言う。

宮木京子、彼女は俺のクラスメイトで今現在学校には来ていない。  
所謂不登校と言うやつだ。

なんて羨ましいんだ。

「羨ましくありませんよ、」

「人の心の中を読まないでください。」  
すると先生がぽかんとする顔をして

「口に出してましたよ。」

「んな、で、宮木がどうしたんです？」

俺が本題に戻す、すると先生が顔を曇らせて

「彼女を学校に呼んでほしいのよ」

「無理ですね。」

不登校になると、殆んど復帰するのは無理だ。

「でも、キミは不登校から復帰したでしょ？」

そう、俺も前まで学校を休んでいた。休んでいた！

「俺の場合は不登校ではなく長期休暇です。」

「そんなの同じでしょ！」

違う、俺の場合アニメを見たいがために学校を長期休暇しただけだ。

ちなみに自分で言うのもアレだが、俺は結構もてる。

「貴方の容姿なら彼女もおとせるはずよ。」

「先生。俺は二次元にしか興味ありません。」

苦笑いを浮かべる先生だが、コレは事実だ。

これまでに数回俺は告白されたがすべてを二次元を理由に断った

「とにかく、彼女の家に行ってみてください」

「は？」

「・・・・・・お願い、」

チツあそこまで（土下座）されたら断れねえじゃねえか

俺はぶつぶつ言いながら、もらったメモに書いてある住所に向かった  
ちよつと迷いながらも何とか到着した。

玄関の前でインターフォンを押そうとする、がやめる

もし出てきたらなにを言うんだ？

「学校に来てくれ」・・・・・・か？

そんなこと言われて出てくる奴なんではないよ。

「キミ、何してるの？」

といきなり背後から声が聞こえ、ビクンつと驚く

振り向いてみると、20後半から30前半位の女性が立っていた

両手にはスーパールの袋、買い物帰りとみた

「京子のお友達？」

「あ、いや・・・そ、そうです」

俺は宮木の母親と思われる女性に頭を下げる

「どうぞ上がってください。」

そう言うのと玄関扉を開けて中へ招いてくれた

玄関口は広く、片付いていた

スリッパを借りて、リビングに案内される。

麦茶を出してくれたのでいただく

宮木の母親が向かいあいの椅子に座り

「京子はね、昔はこんな子じゃなかったの、」

宮木の事を話してくれた、いや語ってくれた  
どうやら部屋にひきこもっているようだ。

引きこもりだした理由はあるアニメに釘づけになって出てこないよ  
うだ。

「一度、京子さんに合わせてくれませんか？」

「・・・出来る限りの事はするわ」

そう言うとりビングを出て2階に向かった。

部屋のドアには『きょうこ』と書かれたプレートがある

コンコンと母親さんがノックする

「京子、お友達が顔を見たいって・・・」

そう言うが反応が帰って来ない。

するとしばらくしてガチャツと鍵が開かれる音がするので

母親がドアを開けようとする

ガッ、ガッ・・・

今しめたのか！！！！！！

あの音は開く音じゃなくて閉める音かよ！！

「京子お願い、もう一度開けて、」

母親さんが泣きそうな声で言う。

相変わらず声はしないが、

何回か鍵がガチャガチャ鳴る。

閉めたり開けたりしてるのか？

そしてガチャ音が鳴り終わると

きいゝゝゝと音を立ててドアが開いた。

それを見て母親がしたにおりて行く。

部屋の中はクーラーがきいていてカーテンが閉められ電気が付いて  
いない、唯一の光はパソコンの画面の光。そして、ドアがきいゝゝ  
としまつていく、

ボタンツと閉まりきると一気にガチャガチャ……と鍵が閉まる音が何回も連続する。

「なっ！」

俺が振り返ってドアを見ると暗証番号やら、カードキーやらの鍵が何個も付いていた。

「凄いな、俺はここまでしなかったぞ……」

「貴方誰？」

画面を見ている宮木が俺に聞いてくる

「俺か？俺は佐藤康。」

てか俺主人公だよな？今フルネーム出たぞ！？

「何しに来た？」

「話しに来た。……うーん何のアニメ？」

アニメの事を聞かれぴくんと反応する

すると宮木は画面を見たままアニメの事を話してくれた

「『ミッドナイト』よ。」

「ああ原作：藤島夜先生の三作品目のライトノベルアニメか」

俺はほぼすべてのアニメを見て、原作も好きなのは見ている

「知ってるの？」

「いや、コレくらい一般常識だろ？」

その言葉で俺を同志と思ったのか、椅子に乗ったままぐるっと回転して俺の方に向き直る

「アニメ全話見た？」

「勿論1期から今やってる3期まですべてにおいてリアルタイムで見てる。」

暗い部屋に目が慣れてきた、よく見ると部屋の壁にはミッドナイトのポスターが棚にはフィギュアやキラグッズ、そして本棚に原作本と同人誌がズラっと並んでいる。

俺は思う、宮木はせまく深いな。

ちなみに俺は広く深い。

「宮木は誰が好きだ？」

「アタシは、ヤミーが好き。」

ヤミーはツンデレキャラとして出てきているが出番が多いとは言えない。

「そうか、俺はミルギとか好きかな。」

「ああミルギもいいかも」

ミルギはおつとりしたキャラでドジっ子と言っまあよくあるキャラだ  
「所で、今なに見てたんだ？」

俺が画面を指さし聞くと

「今第2期の5話を見てたところ、」

「何通り見た？」

「20通り位かな。」

ちよつと偉そうに言うが、俺の方が上だな

全アニメ最低でも25通りは見る……が

「凄い見たな、」

「でしょ？アタシはソレほど愛が深いのよ。」

と言うかなんで25回も見れるか、疑問に思う人もいるでしょうから説明。

授業中に顔を伏せているのは寝てるのではなく、アニメを見てるから  
ちなみに、イヤフォンを付けているが、髪が長くて耳が隠れてい  
るのではない。

「最新のフィギュア買った？」

「勿論、買った。」

「じゃあじゃあ……キャラソンCDは？」

次々と質問してくる宮木。

宮木と話しているとドンドン時間が過ぎて行く。

《ピピピピピ……》と突然俺の時計が鳴る。

時間を見ると19時になっていた。

この時間はいつもアニメを見ている。

「もうこんな時間か……そんじゃ、そろそろ帰るわ」

「ええ？もう帰っちゃうん？」

何か寂しそうに言う宮木、だが俺は気にせずドアノブに手をかける。  
・・・が

鍵、解除して。

20時。あの後結局出る事が出来ずに

俺は宮木の話しに付き合わされた・・・が

「明日学校で話そう」と言ったら帰してくれた

家に帰り最新話のアニメ（何回も同じ回）を見る

そして翌日 土曜日。

カレンダーを見た俺はやってしまった感があった。

そして月曜日。いつもあいている席には宮木の姿があった。

「なんで土曜日来なかったん!？」

教室に入ると怒鳴られる俺。相手はモチロン宮木

はあと溜め息をつき、俺の席に着く

「昨日は学校休みだろ？」

「でも明日学校で話そうって!」

怒っているようだが彼女の表情は金曜日に始めてあった時とは違って  
明るかった。その笑顔が俺にはまぶしすぎた

「良いだろ、学校なかったんだから。」

「嘘つき!ヤスのバーカ。」

?ヤスのバーカ?そう笑顔で言った宮木だが、これを無表情で聞いた  
このがあるような気がした。そう遠くない過去、数か月前位だったか  
・・・確かあれは・・・いつどこで聞いたんだ?思い出せそう



で思い出せない。いやきいてないような気がしてきた。読んだ・  
？そんなの読む訳が・・・  
俺の脳裏をよぎる記憶・・・

もし宮木が居なかったら俺はまだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0364z/>

---

二次元野郎と・・・

2011年12月1日14時12分発行